

柿の木で作った眼鏡フレーム

最近愛用している眼鏡は、知人がこさえた世界唯一の試作品だ。

フレームが柿の木でできている。剛性を保つため樹脂を混ぜた。自然素材だから肌になじむ。軽い。金属製と違って冷たくならない。虫捕りで屋外にいることが多い私は、これが手放せなくなつた。

福井県越前市えちぜんの田中保さんたなかたもつのアイデアだ。本業は材木屋と大工。私のパソコン机やマウスパッドも、田中さんの手づくりである。眼鏡のフレームは黒柿を利用した。

田中さんは、杉の間伐材の利用にも成功している。六角丸太を真っ二つに割って互い違いに積み上げ、木目に平行ではなく垂直に切つて合板にした。強度が増したうえに、パズルのような年輪模様がデザインにうるさいイタリアの大手木材業者を唸うならせた。間伐は人件費がかかり敬遠されるが、こうすればその費用も賄える。

同県鯖江市さばいの業者らと共同開発された件の眼鏡は、まずは中国で売り出される。安い中国製に押され気味の「めがねのまち」だが、その中国の富裕層に売り込もうというのだ。

「コロンブスの卵」の発想が山や地場産業を救うのである。